



時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

それではいよいよお釈迦様の聖地のお話を始めたいと思います。まず最初はインド四大仏跡の一つ、皆さんがよくご存知のお釈迦様生誕の地『ルンビニ』です。

現在のインドとネパールの国境付近に、紀元前5世紀ごろ釈迦（シャキヤ）族が治める小国がありました。その国王の妻であった摩耶夫人が出産のため帰りする途中、このルンビニの地で沐浴をされ無憂樹に右手を触れた時に、お釈迦様が誕生されました。



この生誕地にはアショカ王が残したアショカピラー（写真中央上）があり、ここが聖地であることを印象付けます。またその近郊には、居城「カピラ城」跡（ネパール側）や父母のストゥーパ（お墓）、

釈迦族滅亡の地といったお釈迦様に縁のある町や遺構が多数点在します。また先ほどのカピラ城域はとて広く、インド領内にもその一部が存在するためインド国内にもカピラ城跡とされる町があります。

このようにお釈迦様の生誕地ルンビニを中心に広大な地域にわたって現存する様々なお釈迦様の遺構ですが、驚くことにこれらのほぼ全ては今からわずか100年ほど前に発掘されたばかりで、その後の同地域のインフラ整備の遅れや国情などの影響もあり、いまだ発掘途上にあります。しかしそれでも、お釈迦様がこの地で誕生されたことを充分感じ取ることができる素晴らしい場所でした。



さてこのインド旅行記は、「お釈迦様の聖地へ行きたい！」と皆様に思っていたため、毎回後半は現在のその地の風土・特徴などを感じていただくコラムを書かせていただきますと思います。

『ネパール連邦

民主共和国について』

国土総面積

北海道の約2倍

総人口 約2700万人

首都・カトマンズ

・那覇市とほぼ同緯度

・標高 1300m

国家元首 大統領

言語 ネパール語など

主な宗教 ヒンズー教

総人口に占める仏教徒

9%（約250万人）

通貨単位 ルピー

1ルピー＝約1円

【ネパール近代史】

20世紀末より、毛沢東主義派が武力闘争を行い政情不安定が続いていましたが、21世紀に入ると包括和平が成

立し、制憲議会選挙を実施。制憲議会初会合でそれまでの王政が廃止され、連邦民主共和制に移行することになりました。なお日本との関係は、1899年に僧侶の河口慧海師が日本人として初めてネパールを訪問してから、王室外交を中心に比較的良好な関係が続いています。

「私を感じた国民性」

上の写真は国境バリケード地帯で町の写真を撮影していた時に、そばに寄ってきた若者たちです。基本的にはフレンドリーなこと、インドから国境を超えると明らかにモンゴロイドの顔立ちの方が増えるため、日本人にとって少し懐かしい感じがするかもしれません。